

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	熟練保健師の個々の住民への支援技術の特性：ケイパビリティの概念に基づく分析
別タイトル	Characteristics of Experienced Public Health Nurses' Advanced Practical Skills to Support Individual Residents : Analysis Based on the Concept of Capability
作成者（著者）	植村, 直子
公開者	FD委員会 健康科学ジャーナル編集会(東邦大学健康科学部)
発行日	2023.03.31
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 6. p.83 90.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	報告
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohohsj.6.83
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD28215549

熟練保健師の個々の住民への支援技術の特性

— ケイパビリティの概念に基づく分析 —

植村 直子

本研究は、熟練保健師の家庭訪問、健康相談等の支援技術に関する研究論文を対象とし、ケイパビリティの概念を基に分析することにより、熟練保健師の支援技術の特性を明らかにすることを目的とした。医学中央雑誌webを用い、「熟練保健師」「保健師」「支援技術」のキーワードにより、6件の質的研究法による研究論文を選定した。分析の結果、136のコード、24の小カテゴリー、11の中カテゴリー、6の大カテゴリーを抽出した。熟練保健師は【対象者を尊重し支援する意志を示す】【まわりの支援者と相互に補い合う】ことで、対象者の【暮らしぶりから問題を見極める】【見通しが持てるよう関わり、実際にできる方法を共に見出す】ようにしていた。また、【対象者の反応やペースに合わせてアプローチを変化させる】という支援技術を用い、一連の【経験から学んだことを、次の支援に活かす・伝える】など、対象者への支援を通じて学び続けていることが示された。

キーワード 熟練保健師 支援技術 ケイパビリティ

I. 研究の背景と目的

保健師は地域住民の健康課題に対して、家庭訪問や健康相談、健康教育、住民グループ支援といった公衆衛生看護技術を用いて支援している（田村，2021）。これらの保健師が用いる看護の支援技術（以下、支援技術）は、これまでの先行研究において、知識、技術、態度で構成されるコンピテンシーとして示されている。コンピテンシーは、家庭訪問や、健康相談、健康教育、住民グループ支援といった技術を用いる際に、保健師がどのような意図により、どのような支援を住民に提供しているのかを可視化している。一方で、コンピテンシーは、安定した状況における固定の知識や技術、態度を表しており、ケアの対象者の反応や多様な状況、変化する状況に応じて、対象者にとって最良なケアを提供している看護の実践内容を十分に示せていないという批判がある（Benner, 1982）。

こうした批判に対して、海外において、ケイパビリティの概念を用い、看護職者の高度な実践内容を示そうという動きがある。ケイパビリティとは、前向きな信念、他者と協働する姿

勢、問題の明確化と適切な支援内容の選択、状況に応じた対応と創意工夫、専門職者としての継続した学び、といった内容で示される概念である。ケイパビリティの概念を用いることにより、コンピテンシーでは示しきれない高度な看護実践内容を示す可能性が示唆されている（O'Connell, Garner & Coyer, 2014）。

そこで、本研究は、熟練保健師の家庭訪問、健康相談等の支援技術に関する研究論文について、ケイパビリティの概念を基に分析することにより、高度な看護実践に取り組む熟練保健師の支援技術の特性を明らかにすることを目的とした。

なお、保健師の支援技術には、家庭訪問、健康相談、健康教育、住民グループ支援といった内容が含まれるが、本研究では、地域住民個々の支援に取り組む際に中心となる、家庭訪問、健康相談における熟練保健師の支援技術に焦点化することとした。

II. 用語の定義

熟練保健師：自治体保健師の標準的なキャリア

アラダー（厚生労働省，2016）のキャリアレベルA-3以上に相当する保健師とする。すなわち、保健活動に関わる担当業務全般について自立して行うことができ、対人支援活動では、複雑な事例のアセスメントを行い、支援を實踐できる、支援に必要な資源を適切に導入および調整できる保健師とする。

支援技術：家庭訪問、健康相談において個々の地域住民への支援を提供する際に用いる知識、スキル、態度、状況に応じた思考と判断、支援関係者等との連携、および経験を通して獲得した学びの活用の総体とする。

ケイパビリティ：支援に取り組むことで対象者にとって良い結果が得られるという前向きな信念、他者と協働する姿勢、問題を明確化し適切な支援方法を選択する、対象者の反応や状況の変化に応じて待つ/機を捉えて動く、新たな方法も含めて創意工夫する、自身の学習課題を把握し学び続ける、こうした実践の積み重ねにより多様な状況において（慣れない状況、困難な状況においても）、最良な支援を総合的に提供できる力とする（O'Connell, Garner & Coyer, 2014 ; Cairns & Stephenson, 2009 ; Hase & Devis, 1999 ; Margulies, 1984）。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象

熟練保健師の家庭訪問、健康相談の支援技術に関する研究論文のうち、質的研究方法を用いて分析された原著論文を対象とする。

2. 収集方法

医学中央雑誌webを用い、キーワードは「熟練保健師」、「保健師」「支援技術」の組み合わせにより検索した。絞り込み条件では、原著論文のみを選定し、会議録、解説は除いた。収集期間は、2022年8月である。

3. 分析方法

1) 分析対象論文の概要の整理

対象論文のタイトル、掲載雑誌情報、研究の目的、方法、対象者、結果の概要を整理した。

2) ケイパビリティの概念に基づく分析

対象文献の結果の記述より、ケイパビリティの概念に基づき、「良い結果が得られるという前向きな信念」「他者と協働する姿勢」「問題を明確化し、適切な支援方法を選択する」「対象者の反応や状況の変化に応じて、待つ/機を捉えて動く」「新たな方法も含めて創意工夫する」「自身の学習課題を把握し、学び続ける」に該当する箇所を抜き出し、コードを作成した。コードを見比べ、意味内容の共通するものを整理し、小カテゴリーを作成した。同様の手順で、小カテゴリーから中カテゴリーを、さらに、中カテゴリーから大カテゴリーを抽出した。

Ⅳ. 結果

1. 分析対象論文の概要

検索の結果、49件の論文が抽出された。抽出された論文から熟練保健師を対象とした研究でないもの、保健師の家庭訪問、健康相談の支援技術に関する内容でないものを除外し、6件を分析対象論文として選定した（表1）。なお、本研究において熟練保健師の定義に用いた自治体保健師の標準的なキャリアラダーは、保健師個々の背景や状況に応じて活用するものであり、実務経験年数の規定はしていない。しかし、対人支援活動において、自律して複雑な事例のアセスメントを行い、支援を實踐できる、支援に必要な資源を適切に導入および調整できるレベルに到達するには、保健師実務経験年数が5年以上は必要であると考えられる。よって保健師実務経験年数5年以上の保健師を研究対象とした論文を含むこととした。

選定された論文のテーマは、家庭訪問での支援に関するものが1件、乳幼児健康診査での健康相談等に関するものが1件、児童虐待予防、および発達障害児の子どもと親に対して、家庭訪問や健康相談等を組み合わせたものが4件であった。

2. 熟練保健師の支援技術の特性

136のコードから、24の小カテゴリー、11の中カテゴリー、6の大カテゴリーが抽出された(表2)。以下、大カテゴリーを【】、中カテゴリーを《》、小カテゴリーを〈〉、小カテゴリーに含まれたコードを「」で述べる。

1) 【対象者を尊重し支援する意志を示す】

熟練保健師は、対象者が支援を快く受け入れる状況でない場合においても、「訪問目的や母親のことを心配している気持ちを伝える」というように〈役に立ちたい気持ちを伝え続ける〉ことや、「心を寄せてじっくり付き合う、尊重の思いを伝える関わりを重ね信頼形成をめざ

す」といった〈関わりを重ね信頼関係をつくる〉ことを通じ、支援の対象者との関係が途切れないよう《関わりを重ね支援する意志を伝える》ことをしていた。

また、関係が途切れないようにするため、「母親が困りごとを相談してきた際には徹底的につきあい、母親の意向を重視した支援を行う」など〈対象者の価値観・意向を踏まえた支援をする〉ことや、「母親の育児の様子からできていること、親の強みを見出し肯定する」といった〈対象者の強みを肯定する〉というように、《対象者の価値観・強みを尊重する》よう関わっていた。

表2 熟練保健師の支援技術の特性

【大カテゴリー】	《中カテゴリー》	〈小カテゴリー〉
対象者を尊重し支援する意志を示す	関わりを重ね支援する意志を伝える	役に立ちたい気持ちを伝え続ける
		関わりを重ね信頼関係をつくる
	対象者の価値観・強みを尊重する	対象者の価値観・意向を踏まえた支援をする 対象者の強みを肯定する
まわりの支援者と相互に補い合う	関係者と顔見知りになり情報交換する	関係者と顔見知りになる
		関係者と情報交換する
	まわりの支援者と支援の方向性を検討し互いに補い合う	関係者と相互に補い合う まわりの支援者の見方も取り入れる 他の保健師や他職種とも相談し支援の方向性を検討する
暮らしぶりから問題を見極める	対象者の暮らしぶりを多角的に理解する	対象者のあるがままの思いと生活を把握する
		家族関係、家庭の状況を把握する
		その時々状況をよく観察・把握する
	対象者が困っていることや問題を見極める	困りごとを把握し支援する 問題を明確にし、必要な支援を見極める
見通しが持てるよう関わり、実際にできる方法を共に見出す	対象者が見通しを持ち考えられるよう関わる	親が子どもの特徴に気づく・関わり方が工夫できるよう支援する
		対象者が先の見通しを持てるよう関わる
	対象者ができる方法を工夫して見出す	対象者ができる方法を一緒に考えやってみる
		対象者にとって適切な支援を工夫して見出す
対象者の反応やペースに合わせてアプローチを変化させる	対象者のペースに合わせて見守る/待つ	対象者のペースや雰囲気合わせる
		対象者の反応を見守り待つ
	対象者の反応に応じてアプローチ方法を変化させる	対象者の受け止め方によりアプローチ方法を変化させる
		対象者の心が動いた瞬間を捉える 支援のタイムリミットを逃さない
経験から学んだことを活かす・伝える	経験から学んだことを活かす・伝える	経験から学んだことを活かす・伝える

2) 【まわりの支援者と相互に補い合う】

熟練保健師はふだんから機会を捉えて、「いざというときに協力し合える関係を他の部署や他機関および地域の人とも構築しておくことが重要であると認識していた」というように、〈関係者と顔見知りになる〉〈関係者と情報交換する〉というような「関係者と顔見知りになり情報交換する」ことを行っていた。

このように関係者との顔の見える関係をつくっておき、「親子への関わり手を増やすことで、相互に補い合い親子をサポートしていた」など〈関係者と相互に補い合う〉ことや、〈まわりの支援者の見方も取り入れる〉〈他の保健師や他職種とも相談し支援の方向性を検討する〉など、「まわりの支援者と支援の方向性を検討し互いに補い合う」ことができていた。

3) 【暮らしぶりから問題を見極める】

熟練保健師は、「母親の話をとことん聴くことによって、具体的な暮らしぶりや育児の様子を把握し、暮らしぶりから母親を見立てる」というように〈対象者のあるがままの思いと生活を把握する〉、〈家族関係、家庭の状況を把握する〉ことや、「本人や家族、近隣者、関係機関等からの第一報で緊急性を判断し、問題の起きている現場を、自分の目で確認し、現場で得られる情報を重要視する」など〈その時々々の状況をよく観察・把握する〉ことを通じて、「対象者の暮らしぶりを多角的に理解する」ようにしていた。

また、「育児をいっしょにやったり、母親のそばで見聞きすることで、困りごとやニーズを引き出す」といった〈困りごとを把握し支援する〉ことや、「主訴そのものだけでなく、なぜそのようなことが問題なのだろう、どうしてそう思うに至ったのだろう、といった思いの根の部分を引き出す」など〈問題を明確にし、必要な支援を見極める〉というように、支援を行う過程において、「対象者が困っていることや問題を見極める」ようにしていた。

4) 【見通しが持てるよう関わり、実際にできる方法を共に見出す】

熟練保健師は、「子どもには関わり方の工夫が必要だということを保護者が気づけるように、やり取りの工夫を伝える、解決のヒントを伝える支援技術を用いていた」など〈親が子どもの特徴に気づく・関わり方が工夫できるよう支援する〉、「親の意思決定力等に合わせて選択肢の示し方や問いかけ方を工夫することで、親が自ら考える力を引き出す関わりをしていた」など〈対象者が先の見通しを持てるよう関わる〉というように、「対象者が先の見通しを持ち考えられるよう関わる」ことをしていた。

また、「内容をわかりやすくかみ砕き、一緒にやってみるといったことで、生活に取り入れるためのサポートをする」など〈対象者ができる方法を一緒に考えやってみる〉、「現行の方法やサービス利用のプロセスに限らず、様々な選択肢から工夫して見出す、そのときできる最善策を編み出すことをしていた」といった〈対象者にとって適切な支援を工夫して見出す〉というように、「対象者ができる方法を工夫して見出す」ことをしていた。

5) 【対象者の反応やペースに合わせてアプローチを変化させる】

熟練保健師は、「(保健師は) 親のペースや雰囲気自分に合わせるようにしていた」など〈対象者のペースや雰囲気に合わせる〉、「問題意識のありようから現在の心理状況を予測し、援助の必要性を感じていても今はそのタイミングではないということ判断することもあった」など〈対象者の反応を見守り待つ〉ことというように、「あせらずに対象者のペースに合わせて見守り/待つ」ようにしていた。

また、「反応をみながら距離感を加減する、母親の示す反応によりアプローチを変化させていた」など〈対象者の受け止め方によりアプローチ方法を変化させる〉ことや、「母親の表情ががらっと変わったり、時には涙ぐんだりするような、母親のところが大きく動く瞬間を捉えていた」など〈対象者の心が動いた瞬間を捉える〉、「就園・就学の時期を見据えて、支援のタイムリミットを逃さない関わりを心がけてい

た」など〈支援のタイムリミットを逃さない〉というように、《対象者の反応に応じてアプローチ方法を変化させる》ことをしていた。

6) 【経験から学んだことを活かす・伝える】

熟練保健師は、「自身の過去の経験から学んだことを現在の問題に活かす術を後輩の保健師らに伝え、蓄積した相互関係をつなげていこうとしていた」というように、《経験から学んだことを活かす・伝える》ことで、自身のこれまでの学びを現在の支援に活かしつつ、まわりの保健師にも伝えることで、支援関係者間の連携を深めるようにしていた。

V. 考察

1. 熟練保健師の支援技術の特性

本研究では、熟練保健師は、対象者に【対象者を尊重し支援する意志を示す】ことにより、対象者が何に困っているのか、その背景にはどのような状況があるのかについて、対象者本人や家族、支援関係者とやりとりをしながら、多角的に、そのつど【暮らしぶりから問題を見極める】ようにしていた。また、対象者が抱える問題について、どのようにすれば対象者が見通しを持ち、自らの生活や健康を整えていくことができそうか、対象者と共に考え、実際に一緒に試してみることで、【見通しが持てるよう関わり、実際にできる方法を共に見出す】ことを行っていた。さらに、保健師が提供した支援内容について、対象者がどのような反応をするのか見守りつつ、反応によっては、先を急がずに待つという選択をしたり、対象者の言動や表情から心の動きを捉え、タイミングを計って働きかけるというように、その時々【対象者の反応やペースに合わせてアプローチを変化させる】という技術を用いていた。

また、同僚の保健師や他職種の支援者、時には地域の住民など、様々な人々との協力や連携を重視しており、日頃から、保健師の顔を知ってもらい、情報交換することを通じて、顔の見える関係性を作り、【まわりの支援者と相互に補い合う】ことで、対象者をより多角的に理解

するとともに、より良い支援を提供していた。

これまでの保健師の家庭訪問、健康相談等の支援技術に関する先行研究では、保健師がどのようなことを意図し、どのように対象者に支援を行ったのか、具体的な行動がコンピテンシーとして示されてきた。Gardner et. al.(2007)は、高度な看護実践を捉えるのに、コンピテンシーに加えケイパビリティの概念を取り入れることは有効であると述べているが、本研究では、これまでに示された熟練保健師が何を意図して実際にどのような支援行動をしたのか、というコンピテンシーで示されるノウハウだけでなく、熟練保健師がその時々身置き、対象者の様々な反応に応じて、支援内容を柔軟かつ臨機応変に変化させているといった動的な支援技術の特性を示せたのではないかと考える。

さらに、本研究では、【経験から学んだことを活かす・伝える】というように、熟練保健師が対象者への支援に取り組む一連の経験から学んだことを、次の支援に活かしたり、周りの保健師等に伝えていることが示された。松尾ら(2013)は、保健師が経験から学ぶ内容として、「地域連携力（地域住民・他職種と連携・関係づくり、一人で悩まず他者と連携する）」「関係構築力（その人にあった解決策をともに考える、対象者の話を聴き思いに寄り添う、指導ではなく助言・サポートする）」「保健師としての専門性（保健師として専門性をもって関わる、感情ではなく理論に基づいて整理する）」「保健師の役割（保健師の業務とは何かを考えるようになる）」などをあげている。本研究においても、熟練保健師が、周りの人々と協力し、状況を見極め対象者にあつた支援を提供すること、対象者を支援するうえで保健師として関わりとはどういうことか、保健師の役割とは何かということについて考えるという経験を通じて、支援技術を向上させている、その一部を示唆できたのではないかと考える。

VI. 今後の課題

本研究では、ケイパビリティの概念を基に、

支援技術を知識、スキル、態度に留まらず、状況に応じた思考と判断、支援関係者等との連携、および経験を通して獲得した学びの活用の総体と捉えたが、対象とした研究論文においては、ケイパビリティの概念のうち、「自身の学習課題を把握し、学び続ける」に該当する記述は少なかった。保健師が、住民への支援を実践する中で得た気づきや学びを、次の支援に活かし、また、自身の学びを周りの保健師にも伝えることで支援関係者間の連携を深めているという内容は、支援技術全体の向上を促したり、支えるうえで重要であると考えられる。

今後、ケイパビリティの概念を用いて熟練保健師を対象としたインタビューなどにより、「自身の学習課題を把握し、学び続ける」という支援技術の内容をより明確に示していくことで、新任期から中堅期の保健師が、自身の支援技術をどのように向上させていくことができるのか、可視化、言語化していくことができるのではないかと考える。

Ⅶ. 結論

本研究は、熟練保健師の家庭訪問、健康相談等の支援技術に関する研究論文を対象とし、ケイパビリティの概念を基に分析した。その結果、熟練保健師は【対象者を尊重し支援する意志を示す】【まわりの支援者と相互に補い合う】ことで、【暮らしぶりから問題を見極める】【見通しが持てるよう関わり、実際にできる方法を共に見出す】【対象者の反応やペースに合わせてアプローチを変化させる】という支援技術を用いていること、こうした一連の【経験から学んだことを、次の支援に活かす・伝える】支援技術を向上させていることが示された。

Ⅷ. 利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

謝辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金「ケイパビリティの視点による保健師のコミュニ

ティグループ支援のガイドラインの開発（代表植村直子 課題番号20K19224）」の一部として実施した。

引用文献

- Benner, P. (1982) : Issues in Competency-Based Testing. *Nursing Outlook*. 30(5), 303-309.
- Cairns, L. & Stephenson J. (2009) : *Capable Workplace Learning*. Boston, Sense Publishers.
- Gardner, A., Hase, S., Gardner G., Dunn, S. V. & Carryer, J. (2007) : From competence to capability: a study of nurse practitioners in clinical practice, *Journal of Clinical Nursing*, 17 (2) , 250-258.
- Hase, S. & Davis, L. (1999) : Developing capable employees: The work activity briefing. *Journal of Workplace Learning*. 8, 298-303.
- 厚生労働省 (2016) : 保健師に係る研修のあり方等に関する検討会 最終とりまとめ 自治体保健師の標準的なキャリアラダー. <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000119166.html>
- Margulies, A. (1984) : Toward Empathy: The Uses of Wonder. *The American Journal of Psychiatry*. 141 (9) , 1025-1033.
- 松尾睦, 岡本玲子 (2013) : 保健師の経験学習プロセス. *国民経済雑誌* 208 (4) , 1-13.
- O'Connell, J. Garner, G. & Coyer, F. (2014) : Beyond competencies : using a capability framework in developing practice standards for advanced practice nursing. *Journal of advanced nursing*. 70 (12) , 2728-2734.
- 田村須賀子 (2021) : 最新公衆衛生看護学総論 第3版/2021年版 : 第3章-Ⅲ 公衆衛生看護技術, 189-265.

Characteristics of Experienced Public Health Nurses' Advanced Practical Skills to Support Individual Residents

— Analysis Based on the Concept of Capability —

Naoko UEMURA

Toho University

This study clarifies the characteristics of experienced public health nurses' advanced practical skills by analyzing research papers based on the concepts of capability. The Japan Medical Abstracts Society website searched for research papers on home visits and health consultation. The search terms were “experienced public health nurses,” “public health nurses,” and “support skills.” Six research papers were analyzed. The concept of capability describes positive belief, collaborative attitudes, problem clarification, flexible response, creative work, and continuous learning beyond knowledge, skills, and attitude shown as competency. Six major categories were identified from 11 medium categories and 24 minor categories. Experienced public health nurses a) show the will to respect and support a resident, b) support each other in various situations, c) identify problems based on lifestyles, d) support a resident to be able to have a prospect and find ways to actually do by self, e) change their approach according to the response and pace of the resident, and f) continuing learning while supporting the resident and applying the skills to the following opportunity.

Key words experienced public health nurses, advanced practical skills, capability